

# 「口腔がん8020運動」の提案

朝日新聞平成20年8月6日朝刊

## 口腔癌治療も 早期発見が鍵

歯科医師・昭和大学歯学部教授 新谷 悟

歯科医による「第2の8020運動」を提案します。8020運動とは、80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動です。第2の8020運動とは、口腔癌の早期発見率を、現在の20%から80%にしようというものです。

口の中にも舌癌や歯肉癌など、癌ができます。年間約6千人の方が罹患されます。早期癌で発見されると「食べる・飲む・話をする」などの口の働きを損なうことなく治すことができ、5年生存率（診断から5年経過後に生存している患者の比率）は90%以上です。

しかし、進行癌で発見された場合には、手術で癌の部分を大きく切り取らなくてはなりません。無くなった舌や顎などは体の他の部分を使って再建しますが、首や顔に傷ができ、「食べる・飲む・話をする」などの口の働きが悪くなることは避けられません。そのうえ治療期間が長くなるのもしばしばで、それらの治療を行っても5年生存率は50%程度です。

歯科医は口腔癌発見のための勉強もしています。現在は患者のうちの20%にすぎない早期発見率を80%以上にするため、積極的に診てもらいましょう。

## 口腔癌治療も 早期発見が鍵

歯科医師・教授 新谷 悟  
(川崎市中原区 46)

歯科医による「第2の8020運動」を提案します。8020運動とは、80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動です。私が提唱する第2の8020運動とは、口腔癌の早期発見率を、現在の20%から80%にしようというものです。

口の中にも舌癌や歯肉癌など、癌ができます。年間約6千人の方が罹患されます。早期癌で発見

特別攻撃隊要員との面会に訪れた家族が死んだ。

前年の4月、軍国少年の私は18歳で予科練を志

行機はなかった。1年後に土浦へ移り、やがて特別攻撃隊の募集があった。「希望者は一歩前へ」の

輩の皆さん、戦争は自衛隊だけが戦うのではなく、全国民が戦わねばならないことを知ってほしい。

されると「食べる・飲む

・話をする」などの口の働きを損なうことなく治

すことができ、5年生存率(診断から5年経過後に生存している患者の比率)は90%以上です。

しかし、進行癌で発見された場合には、手術で癌の部分を大きく切り取らなくてはなりません。

無くなった舌や顎などは体の他の部分を使って再建しますが、首や顔に傷ができ、「食べる・飲む

かたえくぼ

【注意書】

上り(時々下り)

— エスカレーター —

(仙台・三奥園)

・話をする」などの口の

働きが悪くなることは避けられません。そのうえ治療期間が長くなるものしばしばで、それらの治療を行っても5年生存率は50%程度です。

歯科医は口腔癌発見の

ための勉強もしています。現在は患者のうちの20%にすぎない早期発見率を80%以上にするため、積極的に診てもらいましょ。

## 車内のもめ事 一言で防げる

無職 定政 恵子

(北海道江別市 77)  
「電車内の怒声 乗客

ひるます」(7月29日)を読み、怒声を発した男性よりも投稿者のあなた